

平成 26 年度第 1 回 横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会会議録	
日時	平成 26 年 5 月 21 日（水）午前 10 時から正午まで
開催場所	横浜市中心図書館 5 階 第一会議室
出席者	延命委員長、荻原委員、藤崎委員、前田委員、渡辺委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者 2 人）
議題	1 平成 26 年度選定評価委員会の審議の進め方について 2 横浜市山内図書館平成 25 年度事業報告書について 3 山内図書館次期指定候補者の選定について 4 その他
決定事項	1 平成 26 年度の審議の進め方、次期指定候補者の選定の方向性について確認した
議 事	<p>1 平成 26 年度選定評価委員会の審議の進め方について （事務局）選定評価委員会の進め方について説明。 （延命委員長）了承する。</p> <p>2 横浜市山内図書館平成 25 年度事業報告書について （事務局）平成 25 年度事業報告書について説明。 （荻原委員）平成 25 年度事業のヒアリングはいつ行うのか。 （事務局）第 6 回を予定している。</p> <p>3 山内図書館次期指定候補者の選定について （事務局）横浜市立図書館 18 館のネットワーク体制を基本としたうえで、民間ノウハウの発揮・チャレンジ感あふれる取り組みを次期指定候補者に要求する。さらに、読書活動推進計画の策定により、横浜市民の読書活動の推進役を図書館が担う必要があるため、地域の情報拠点及び地域の読書活動の推進という機能についても大きく期待する。 （藤崎委員）チャレンジ感あふれる取り組みを期待するということだが、チャレンジをすることにはリスクも伴う。新しい取り組みには期待も大きくなり、それが評価にもかかわってくる。ベクトルの異なる複数の事業を同じ土俵で選定するのは難しいのではないか。 （事務局）18 館のネットワーク体制を前提とした運営の中で、新しい取り組みを提案してもらいたいと考えている。また、武雄市のように、従来の図書館のサービス・運営だけではない点が評価されているような指定管理者の試みもある。図書館における指定管理者制度を考えていく上では、大きな要因となっている。 （前田委員）1 期目の指定候補者の選定は全員同じ条件だったが、今回、現事業者の有隣堂グループが応募すると情動的に有利になると考えられる。現地説明会等で不公平がないようにすると思うが、事務局としては何か考えがあるのか。 （事務局）現事業者が応募書類を提出する場合は、他の事業者より情報の優位性はあると思う。そこで、読書活動推進などの新たな課題については、業務要求水準書等で十分説明する必要があると考えている。 （前田委員）平成 25 年度の業務評価が選定の後になるということは、順序が逆転している。直近年度での評価は中間期評価があり、比較的良好な運営がされているという総括だった。中間期評価から変更・問題のあった点について情報提供してもらえるのか。</p>

	<p>(事務局) 事業報告書について、詳しくは第5回委員会以降で審議することになるが、随時情報提供はしていく。また、現事業者の評価を次期指定候補者の選定の中でどう扱うかについては、インセンティブという考え方が市のガイドラインの中で明記されている。特に図書館の指定管理では、事業収入という形で独自収入が得られないため、事業の継続性をひとつのインセンティブとして捉えるということが考えられる。</p> <p>(延命委員長) そのインセンティブの判断基準について、判断基準となる材料がないので、ガイドラインを示してほしい。</p> <p>(事務局) ガイドラインを参考資料として提出する。</p> <p>(渡辺委員) 第1期の指定管理者として有隣堂グループが選ばれたが、そのときの資料を参考として見ることは可能か。</p> <p>(事務局) 参考資料として提出する。</p>
<p>資料・ 特記事項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 平成 25 年度 第5回横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会会議録(案)</p> <p>(2) 平成 26 年度横浜市山内図書館指定管理者選定評価委員会の開催について</p> <p>(3) 横浜市山内図書館平成 25 年度事業報告書</p> <p>(4) 山内図書館次期指定候補者の選定について</p> <p>(5) 横浜市民の読書活動の推進に関する条例</p> <p>(6) 横浜市民読書活動推進計画(概要)</p> <p>(7) 横浜市山内図書館の指定管理者の候補者の選定等に関する要綱</p> <p>2 特記事項</p> <p>(1) 平成 25 年度第5回会議の議事録は承認</p>